

【短報】小笠原から珍奇なヒメマキムシ科甲虫 *Mumfordia* 属の発見

以前、小笠原の甲虫類を同定した時、どうしてもわからない珍奇なヒメマキムシ科と思われる種があり、気になっていた。今回、文献を入手し、調べた結果、日本からは未記録の属と思われるので、ここに記録しておきたい。標本をご恵与いただいた金子義紀氏、文献でお世話になった青木淳一博士に厚く御礼申し上げる。



図1. トゲヒメマキムシ.

Genus *Mumfordia* Van Dyke, 1932

この属はヒメマキムシ亜科 Lathridiinae Erichson, 1842 に属し、極めてユニークな形態をしており、マレーシアからポリネシアにかけて *Mumfordia monticola* Zimmerman, *Mumfordia spinata* Van Dyke, *Mumfordia tuderculata* Van Dyke の3種が分布する (Van Dyke, 1932; Zimmerman, 1935).

トゲヒメマキムシ (和名新称) *Mumfordia* sp.

1 ex., 東京都小笠原村兄島北部, 28. X. 1994, 金子・中原採集.

体長約 2 mm. 写真に示した通り、頭部および前胸背板には瘤状突起があり、上翅にはトゲ状突起がある。また、ヒメマキムシ特有の蠟状の付着物が見られる。触角は 11 節で、先端 2 節が球桿となる。附節式は 3-3-3 である。上記のこの属の既知 3 種には該当しない。

分布：小笠原。

1 頭しか標本がないので雌雄の別は不明。追加標本を是非、見たいものである。

引用文献

- Van Dyke, E. C., 1932. Two new Lathridiidae from the Marquesas. Bull. Bishop Mus., (98): 237-238.
 Zimmerman, E. C., 1935. A new Lathridiid from Tahiti (Coleoptera, Lathridiidae). Bernice P. Bishop Museum Occasional Papers, 11(9): 3-7.

(平野幸彦 250-0865 小田原市蓮正寺585-29)

【短報】日本未記録の微小なゴミムシダマシ

筆者の一人平野は以前、城戸克弥氏からいただいた甲虫の中によくわからない微小甲虫があった。この標本は残念ながら触角の先端部が欠けていて、種の確定まで至らなかった。最近になって、筆者の一人三宅から灯火採集された本種の写真が送られてきた。見ると同じだということがわかり、*Myrmexichenus vaporariorum* Guérin-Méneville と同定した。念のため、益本仁雄博士を通じてハンガリーの Ottó Merkl 博士に画像を送り、確認していただいた。



図1. ミジンゴミムシダマシ.

Myrmexichenus vaporariorum Guérin-Méneville, 1843

この種は Tenebrionidae, Diaperinae, Myrmexichenenini に所属しており、コスモポリタンな種で、旧北区のカタログには日本の分布はないが、ヨーロッパからエチオピア区、東洋区と広く分布している。体長 1.7-1.9 mm. 黄褐色で細長く、背面に毛が生えている。上翅は小楯板周辺が暗化する個体もある。触角は先端 4 節で球桿を作る。前胸背板は横長で密に点刻される。上翅は中央付近が最大幅で、前胸背板と同様に点刻されるが、点刻列はない。附節式は 4-4-4。一見、ホソヒラタムシ科、キスイムシ科、コキノコムシ科のある種に似ている。Handbook of Zoology, Coleoptera, 2 (2010) の p. 617 に全形図がある。なお、旧北区には本種の他に *Myrmexichenus picinus* Aubé と *Myrmexichenus subterraneus* Chevrolat が記録されている。

幸形 聡氏のブログ「害虫屋の雑記帳」に *Myrmexichenus* sp. として兵庫県豊岡市(2009年8月)や大阪市東成区(2011年9月)で採集されているので、連絡をとり本種と確認していただいた。また、今坂(2001)がチビキカワモドキ *Myrmexichenus* sp. という名で長崎県島原半島から記録しているのも本種と思われる。

本種を外国では通常何というか Common Name を調べたが、学名と同じだった。一般的な虫ではないからだろう。日本産ゴミムシダマシの中では最小の種と思われるので、ミジンゴミムシダマシ